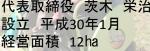
「経営規模の拡大」~新たな地域への参入~



グリーンカウベルグループ (三原市大和町)





(うち機構活用面積1.5ha) 生産品目 ほうれん草・キャベツ・ 落花生・乳牛 従業員 役員4名 常時雇用 23名

経営の特徴

堆肥を活用した野菜作り

~事例のポイント~

- ①ほうれん草生産の第2拠点を求めて他市へ参入
- ②担い手不在地域で、新たな担い手を確保

地域の課題

大和町定ヶ原地区は、地区内の担い手がおらず、住民の高齢化に伴い、耕作放棄地が増加しているため、新たな担い手の確保が課題となっていました。

マッチングのきっかけ

茨木牧場は、三次市甲奴町を生産拠点に園芸作物及び酪農を中心とした経営を行っていました。同社代表の親戚からの相談で、同地区で農業の担い手がおらず困っていることを聞き、主力品目のひとつであるほうれん草の第2拠点として参入について検討を始められました。「地域で担い手を育てていきたい」という地区のみなさんからの言葉を受け、参入を決定しました。活用する農地や管理方法などについて地域の方々と意見を交わす機会を得て話し合いを重ね、スムーズに参入することができました。

グリーンカウベルグループ

【酪農部門】乳牛20頭

茨木牧場(酪農部門)

【園芸部門】ほうれん草・キャベツ・落花生等

茨木牧場(園芸部門)

(株)グリーンカウベル

本社農場(三次市)

大和農場(三原市大和町)



機構を活用して良かったこと 今後の経営の抱負

市外からの参入にあたり、地権者とのやり取りに公的な機関 (機構)の仲立ちがあったため、参入がスムーズにできました。 今後は次世代の社員育成を関係市(三次市、三原市)と連携 して行い、グループとしての生産基盤を強固なものとしていきた いと考えています。

CASE 4

企業の農業参入

(株)広島アグリネットファーム

[三原市]



代表取締役:波木明成 設立:平成28年8月

経営面積:2.1ha(農地中間管理機構活用面積 2.1ha)

生産品目:トマト

従業員:役員4名,常時雇用3名

食品流通業界から農業への参入を実現

フレスタホールディングスグループでは、以前より農業参入の構想を検討しており、候補となる農地を探していたところ、遊休化が進む佐木島の農地活用を進めていた三原市との協議が整い、平成28年3月に参入を決定しました。

平成28年8月に(株) 広島アグリネットファームを設立し、同年10月に約1 haの農地を農地中間管理機構から借り受け、工事が完了した平成29年9月から約50 aの施設でトマトの生産を開始しました。

さらに、平成29年9月には隣接する農地約1 haを 農地中間管理機構から借り受け、規模拡大に向けての 準備を進めています。

将来的には、更に隣接する農地確保を進め、体験農園の整備等によるリゾートファーム事業への参入を目指しています。

農地中間管理事業の活用で まとまった農地を確保

フレスタホールディングスグループは, 農業参入に不可欠な農地確保のため, 当初から農地中間管理機構と一



平成 29 年度建設ハウスの空撮画像



(株) 広島アグリネットファームの将来ビジョン

緒に検討を進めてきました。

三原市では、まとまった農地を確保するため、平成27年11月に地域の農地所有者に対して農地中間管理事業の説明会を実施し、8名の地権者から約17.5haの貸付希望の申し込みを受け、マッチングにつながりました。

今後,貸付希望農地への企業等の参入がさらに進み, 地域の活性化につながることを期待しています。